

脊椎アミロイドーシスの透析方法の影響 ALアミロイドーシスの治療

研究分担者：虎の門病院 高市 憲明

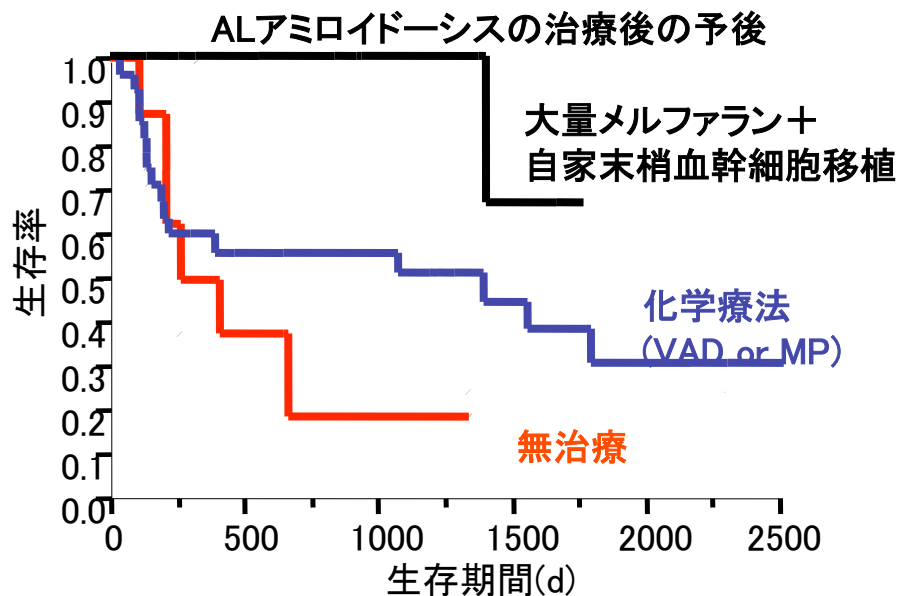
10年以上透析を行っている血液透析患者80名、腹膜透析患者26名を対象とし、症状およびMRIから透析アミロイドーシスによる脊椎症と診断した患者は以下の通りであった。

○血液透析患者 平均透析年数 32.2 ± 9.7 年

頸椎症が9%、腰椎症が5%

○腹膜透析患者 平均透析年数 12.3 ± 2.6 年

頸椎症が23%、腰椎症が23%



解 説

1. 腹膜透析では透析アミロイドーシスによる脊椎症の発症は血液透析よりも早く発症する可能性が高く、また腰椎症の発症頻度が高い傾向がある。
2. ALアミロイドーシスでは自家末梢血幹細胞移植を併用した大量メルファランによる治療が通常の化学療法や無治療に比べて予後が良好であった。